

様式1

平成 31 年度 学校評価表

学校教育目標		凛とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成 ～自己肯定感の向上～												
a ミッション		「学びの革新」の推進による主体的・対話的で深い学びの実現と発信				a ビジョン		教職員が元気に笑顔で生徒の前に立てる学校				尾道市立長江中学校		
評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 度達成	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
凛とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成	(教務部) (キャリア教育研究部) ○学習内容の確実な定着～わかる授業づくり～ ○全教科における「課題発見・解決学習」の単元開発(更新)と発信 ○学習内容と日常生活との関連を意識した教育活動の推進	・各教科年1回以上の授業研究実施 ・各教科1単元以上の単元開発(更新)と発信 ・研究授業の公開 ・外国語ボランティアへの参加の推奨等	①生徒アンケートの「授業がよく分かる」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度85%) ②全国学力・学習状況調査における全教科平均通過率(昨年度・県差+6.8P) ③研究授業の公開回数(昨年度3回) ④英語能力判定テストにおける当該学年英検レベル到達生徒の割合(昨年度・3級(3年)64%、4級(2年)73%)	① 85% ② 県差+7P ③ 3回以上 ④ 3級(3年)65%、4級(2年)75%	① 82.2% ② +7.8P ③ 11回(計画通り実施) ④ (3年)67.1%、(2年)未実施	① 97.4% ② 111.4% ③ 100%	① B ② A ③ A	①各教科で授業の工夫・改善に取り組み、1学期末生徒アンケートによると「授業がよく分かる」という肯定的な回答をした生徒は全教科平均で82.2%であった。 ②全国学力・学習状況調査結果 国語78(72.8)、数学69(59.8) 英語65(56.0)。(英語「話すこと」39(30.8)) ※()は、全国平均を示している ③研究授業は計画通りおこなっている。事前、事後研も各グループごとに内容の濃い研修をおこなうことができた。また、研究授業も他校への案内をおこない参加を募った。 ④みなと祭において、外国人観光客の案内役として「外国語ボランティア(英語検定3級程度以上が条件)」に28名が参加し、達成感を得ることができた。	3 3	○生徒の落ち着いた学校生活の状況は、本校の良き伝統であり、魅力でもある。是非引き続き丁寧な指導をお願いする。 ○みなと祭において、外国人観光客の案内役として「外国語ボランティア」に参加し、英語を「話すこと」で、達成感を得て、子ども達の自信になったと思います。このような行事への参加も積極的に募ることが、自己肯定感に繋がっていると思う。 ○今年も土堂地区市民運動会には、多くの生徒がボランティアとして参加していた。地域の方や小学生以下の子ども達とのコミュニケーションもうまくとり、裏方の仕事も前向きに元気に活動していました。	①グループ研修を通して、全教科にあてはまる汎用的な授業技術や、生徒との関わり方について整理し、発信していく。 ②全国学力・学習状況調査の結果を分析し、各学年、教科と連携しながら課題克服のための授業改善策・生徒への指導、対応策を構築する。 ③年間予定に沿って計画的に実施する。事前・事後研も積極的に実施する。 ④英語の授業の中で「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を統合した指導を行う。			
	自己肯定感の向上	(生徒指導部) (保健安全部) ○生徒が活躍できる学校づくり ○心と体の健康保持・教育相談活動の充実	・生徒が主体的に関わる学校行事の創造 ・生徒会活動のさらなる活性化 ・SCによるカウンセリングを活用した教育相談活動の推進	①生徒アンケートの「学校行事に積極的に参加している」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度62%) ②生徒アンケートの「生徒会活動に積極的に取り組んでいる」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度82%) ③生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度65%)	① 70% ② 85% ③ 80%	① 88% ② 63.3% ③ 61% 2年:基礎基本67.1% 3年:全国学力54.9%	① 125.7% ② 74.5% ③ 76.3%	① A ② C ③ C	①体育入会では部長や3年生がリーダーとして動き、生徒主体での取り組みができた。しかし、アンケートの結果から見ると、3年生の肯定的評価が1、2年生に比べて低い。 ②部活動紹介・スローガン発表、地域ボランティア活動勧誘等で、生徒会が創意工夫した発表を行った。(住吉花火清掃ボランティア56名参加)また、縦割りの球技大会により、生徒同士のつながりが深まった。 ③教育相談活動の一環として、全学級において、担任による面談を実施した。また、学期末には「いじめ・体罰・セクハラ」アンケートを全生徒にとり、出てきた課題点や悩みに対して、素早く対応ができた。さらに、問題行動等の未然防止や早期対応ができるように、短いスパンでのアンケート実施や相談しやすい環境づくり、そして、教師と生徒の信頼関係づくりが必要である。	3 3	○自己肯定感の向上等、大変良い取組をしている。学力も大事だが、生活面での向上も力を入れてほしい。 ○学校選択制度の変更に伴い、今後生徒数の減少が予想されるが、他の地域から生徒が集まる本校の特色からも、多様な生きた交流を積極的に仕組んでもらいたい。 ○地域で積極的にあいさつをする生徒の姿もあるが、全体的に元気の基礎となるものであり、あいさつができる学校、生徒になってもらいたい。 ○学校、保護者、生徒を含めた「オール長江中」で、引き続き「student first」で一貫団結して進んでいって下さい。	①文化祭に向けての意識の高まりを日常生活への意識とつなぐために、クラスや授業の中でも取り組みと運動した声かけをしていく。 ②生徒会活動の一環として、縦割りグループでのあいさつ運動を行う。また、教員による下校指導の際、あいさつに加えて二言目の声かけを行う。 ③生徒との面談を2回行い、生徒の良さをほめるなど肯定的な話を必ず入れていく。		

【自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成)
 C: 60≦(もう少し) < 80

B: 80≦(ほぼ達成) < 100
 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからぬ。

方策進行管理シート

令和元年度 尾道市立長江中学校

短期経営目標	目標達成のための方策	活動	7月	1月	活動達成度	方策達成度	取組評価
			目標数	目標数			
			達成数	達成数			
<p>〈教務部〉 〈キャリア教育研究部〉 ○学習内容の確実な定着～わかる授業づくり～ ○全教科における「課題発見・解決学習」の開発（更新）と発信 ○学習内容と日常生活との関連を意識した教育活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科年1回以上の授業研実施 各教科1単元以上の単元開発（更新） 研究授業の公開 外国語ボランティアへの参加の推奨等 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科1回以上の授業研究を実施する。 日常生活との関連を意識した「課題発見・解決学習」の単元開発（更新）する。 研究授業を市内中学校へ公開する。 外国語ボランティアへの参加を呼びかけるなど、学習内容を日常生活において活かせるよう生徒に仕掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 3教科以上 3単元以上 1回以上 2回以上仕掛けている 	<ul style="list-style-type: none"> 6教科以上 6単元以上 2回以上 4回以上仕掛けている 	<ul style="list-style-type: none"> 3教科 3単元 1回 2回 	<ul style="list-style-type: none"> 100% 100% 100% 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科で授業の工夫・改善に取り組み、1学期末生徒アンケートによると「授業がよく分かる」という肯定的な回答をした生徒は全教科平均で82.2%であった。 ②国語、理科、体育の3教科において、単元開発を行った。 全国学力・学習状況調査結果 国語78(72.8)、数学69(59.8) 英語65(56.0) ※()は、全国平均を示している ③研究授業は計画通りおこなっている。事前、事後研も各グループごとに内容の濃い研修をおこなうことができた。また、研究授業も他校への案内をおこない参加を募った。 ④みなと祭において、外国人観光客の案内役として「外国語ボランティア（英語検定3級程度以上が条件）」に28名が参加し、達成感を得ることができた。
<p>〈生徒指導部〉 〈保健安全部〉 ○生徒が活躍できる学校づくり ○心と体の健康保持・教育相談活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に関わる学校行事の創造 生徒会活動のさらなる活性化 SCによるカウンセリングを活用した教育相談活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会や文化祭などでリーダーを中心に活動を取り組ませていく中で、生徒の主体性を伸ばす。 執行部・専門部を中心として全体的な運動を進めていく。 SCと養護教諭、SCと担任が生徒の情報やカウンセリング結果について連携する時間の確保をする。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート80% アンケート80% SC来校時100% 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート80% アンケート80% SC来校時100% 	<ul style="list-style-type: none"> 88% 63.3% 61% 2年：基礎基本67.1% 3年：全国学力54.9% 	<ul style="list-style-type: none"> 125.7% 74.5% 76.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ①体育大会では団長や3年生がリーダーとして動き、生徒主体での取り組みができた。しかし、アンケートの結果から見ると、3年生の肯定的評価が1、2年生に比べて低い。 ②部活動紹介・スローガン発表、地域ボランティア活動勧誘等で、生徒会が創意工夫した発表を行った。 （住吉花火清掃ボランティア756名参加） また、縦割りの球技大会により、生徒同士のつながりが深まった。 ③教育相談活動の一環として、全学級において、担任による面談を実施した。また、学期末には「いじめ・体罰・セクハラ」アンケートを全生徒にとり、出てきた課題点や悩みに対して、素早く対応ができた。さらに、問題行動等の未然防止や早期対応ができるように、短いスパンでのアンケート実施や相談しやすい環境づくり、そして、教師と生徒の信頼関係づくりが必要である。

【取組評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60